

ネットモニター調査結果 - '23年1月期 -

ご協力いただいたモニター数：238社

調査期間：2023年2月1日～8日

《1月の景況判断に関する要点》（図A、図B、図C）

景気は、物価上昇等の影響により、足踏み

- 1月の景況（前月比）**をみると、「上昇・好転」の割合が5.2ポイント下降して13.9%、「下降・悪化」は7.3ポイント上昇して31.9%となり、**DIは12.5ポイント下降して-18.0**となった。
 業種別DIは、製造業で7.6ポイント下降して-17.3、非製造業で-15.7ポイント下降して-18.0となった。
- ＜上昇・好転要因＞**は、「内需が増大したから」が66.7%と最も高く、次いで、「時期的、季節的な要因で」が33.3%と高くなった。
- ＜下降・悪化要因＞**は、「内需が減少したから」が53.9%、「時期的、季節的な要因で」が43.4%、「原材料・仕入れ価格などコストが上昇したから」が26.3%、という順で高くなった。
- 3ヵ月後（4月）の見通し**は、「上昇・好転」が11.5ポイント上昇して36.1%、「下降・悪化」が5.7ポイント下降して15.1%となり、**DIは17.2ポイント上昇して21.0**となった。
- 1月の前年同月比**は、「上昇・好転」が1.0ポイント下降し26.1%、「下降・悪化」が2.7ポイント上昇して27.3%となり、**DIは3.7ポイント下降して-1.2**となった。
 業種別DIは、製造業で7.1ポイント下降して-5.1となり、非製造業で0.9ポイント下降して2.1となった。

注：ネットモニター調査は、2019年4月から大阪市経済戦略局と（公財）大阪産業局が共同実施しており、両調査の回答を集約のうえ、とりまとめて結果を公表しております。

図 A 景況判断

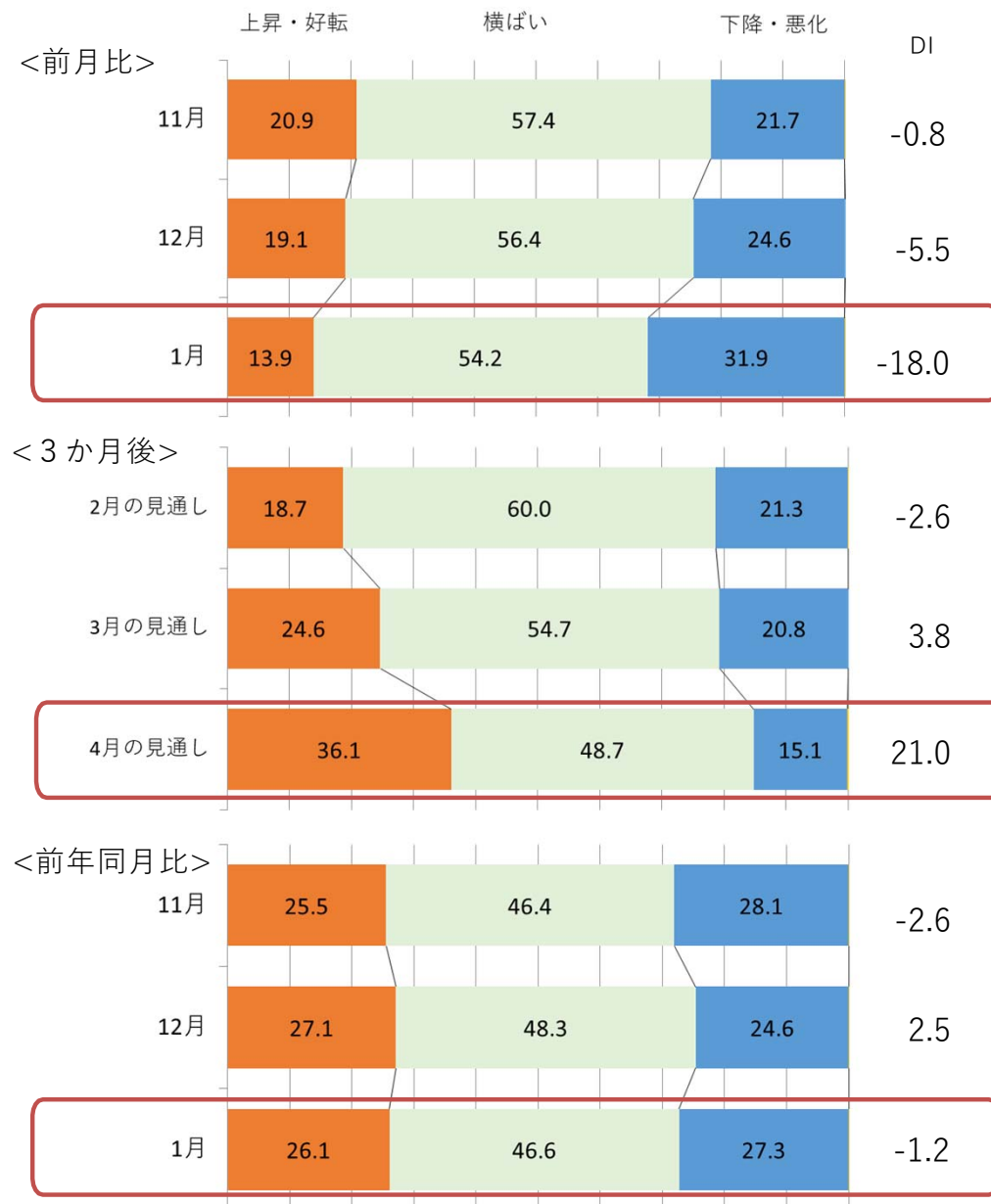
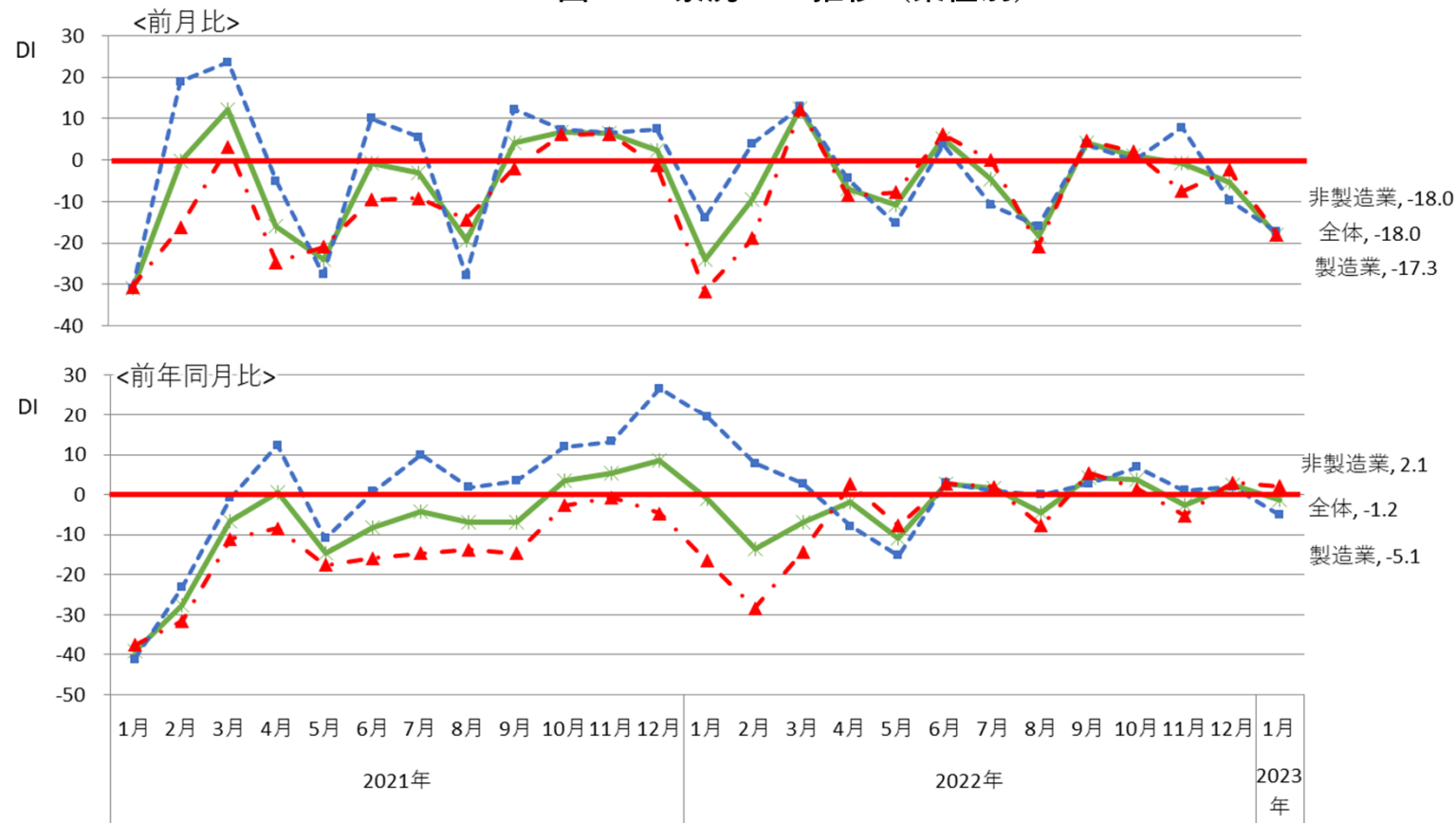


図 B 景況DIの推移（業種別）



* D I（Diffusion Index）は、「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

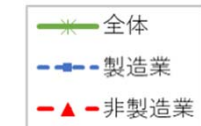
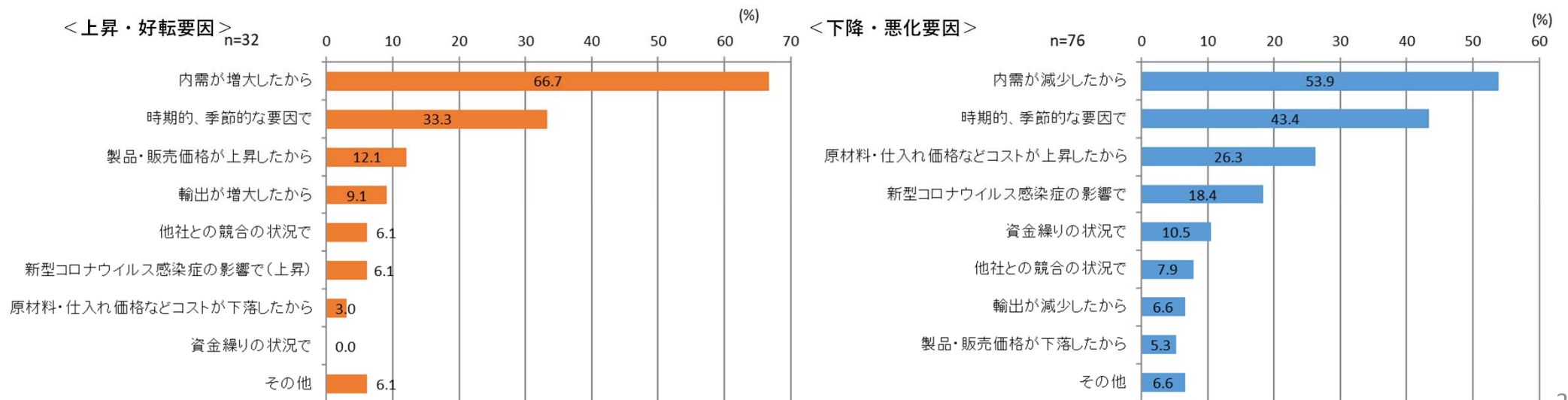


図 C 前月比景況変化の理由



《SDGsの認知度と取組み状況》図D

< 全体 >

- 「取組みを行っている」は28.0%となり、前回調査の2022年1月より4.4ポイント上昇した。一方で、「内容は知っているが検討はしていない」は45.3%と、横ばい(0.2ポイント下降)で推移した。
- 「取組みを検討中」は23.3%となった。業種・規模別でみてもいずれも2割台と、業種や規模の差はあまりみられなかった。
- 「全く知らない」は0.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」は3.0%で、これらを差し引きすると、認知度は96.6%となった。認知度は、業種別、規模別に関わらず、9割を上回った。

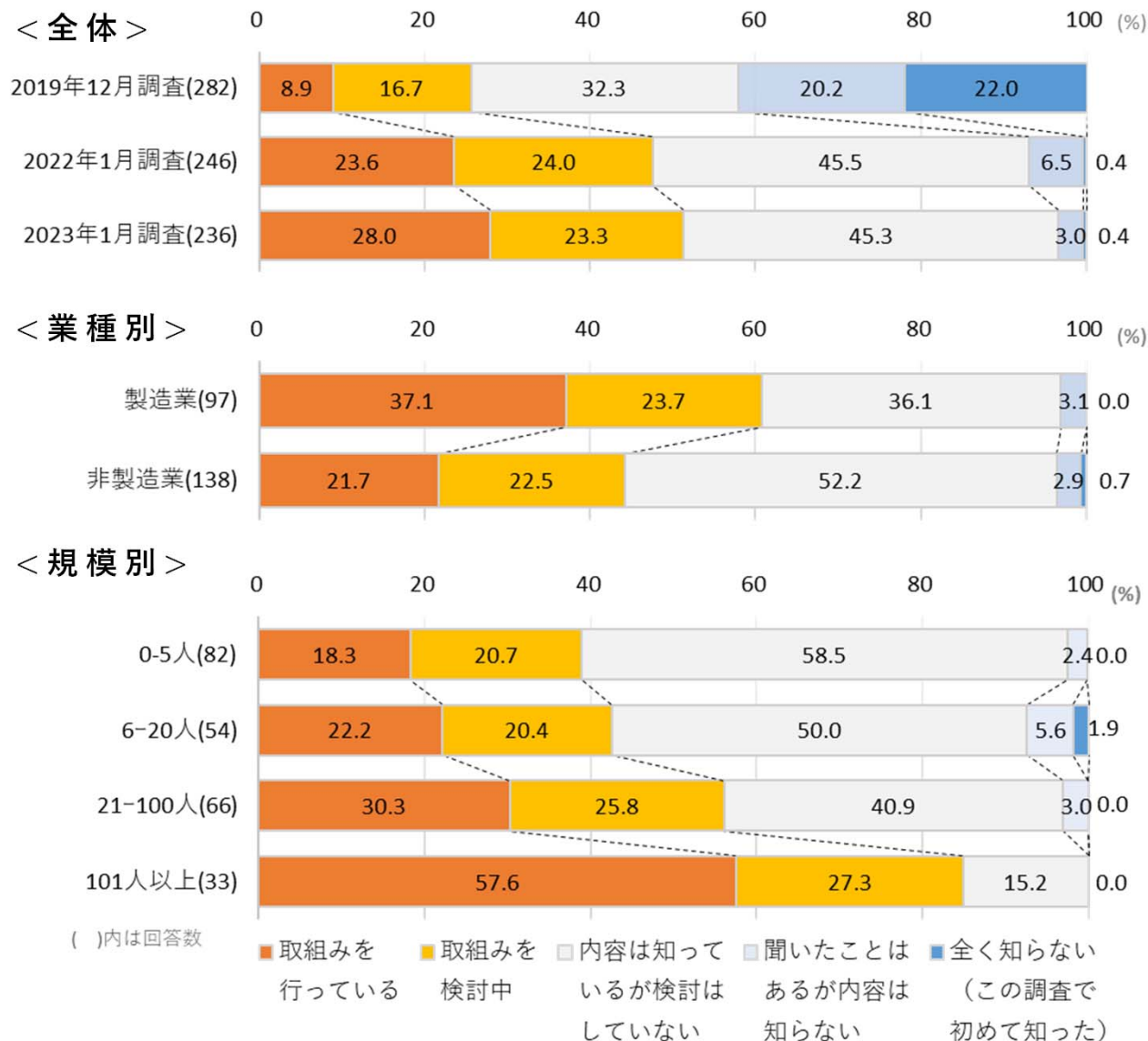
< 業種別 >

- 「取組みを行っている」は、製造業で37.1%、非製造業で21.7%となり、製造業が15.4ポイント上回った。
- 「内容は知っているが検討はしていない」は、製造業で36.1%、非製造業で52.2%となり、非製造業が16.1ポイント上回った。

< 規模別 >

- 「取組みを行っている」は、規模が大きいほど割合が高く、0-5人で18.3%、6-20人で22.2%と約2割となったのに対して、101人以上では57.6%と6割弱を占めた。
- 「内容は知っているが検討はしていない」は、規模が小さいほど高く、0-5人、6-20人では5割以上となった。

図D SDGsの認知度と取組み状況



《SDGsへの取組み、関心》図E

< 全体 >

- 17の目標のうち、“取り組んでいる”目標をみると、「8. 働きがいも経済成長も」が26.9%と最も高く、「12. つくる責任つかう責任」が25.2%、「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」が19.7%と続いた。
- “関心がある”目標では「12. つくる責任つかう責任」が41.4%と最も高く、次いで「17. パートナリシップで目

標を達成しよう」が38.7%と続いた。

< 業種別 >

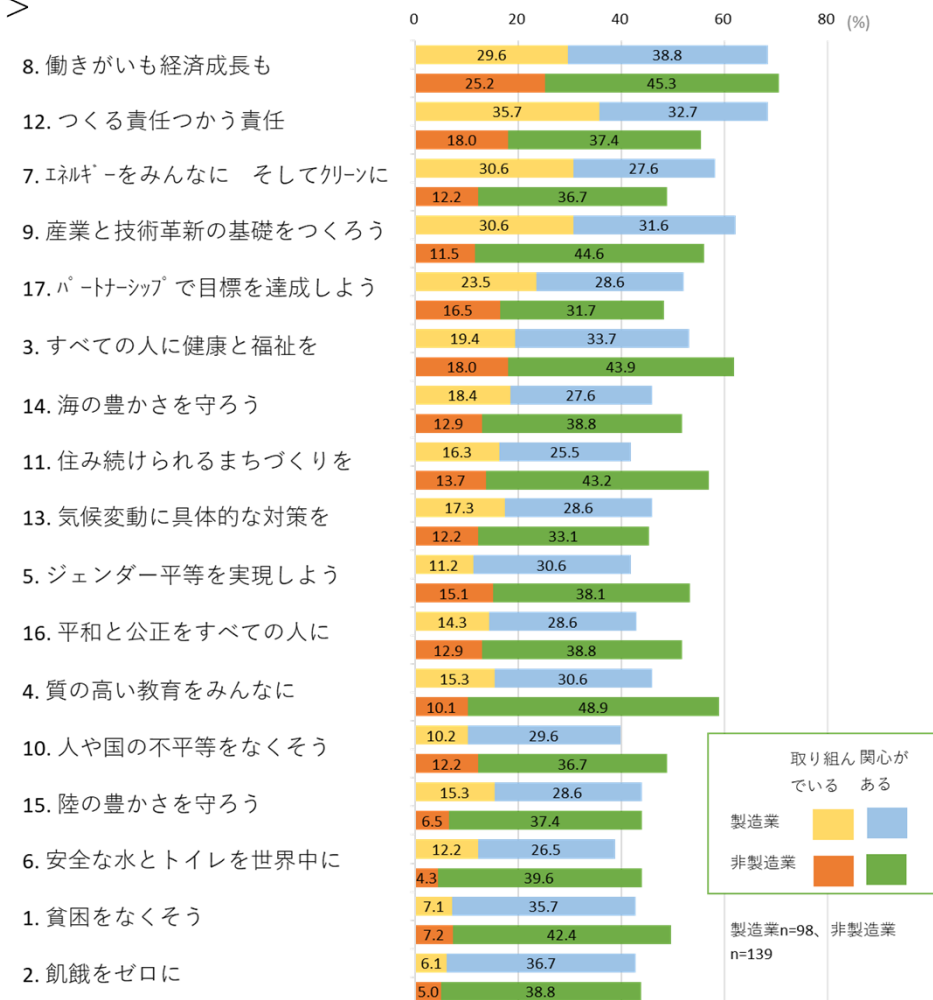
- “取り組んでいる”目標をみると、製造業では「12. つくる責任つかう責任」が35.7%と最も高く、非製造業では「8. 働きがいも経済成長も」が25.2%と最も高くなった。
- “関心がある”目標をみると、すべての目標で、非製造業が製造業を上回った。

図E SDGsへの取組み、関心

< 全体 >



< 業種別 >



《SDGsへの取組み、関心》図E（続き）

< 規模別 >

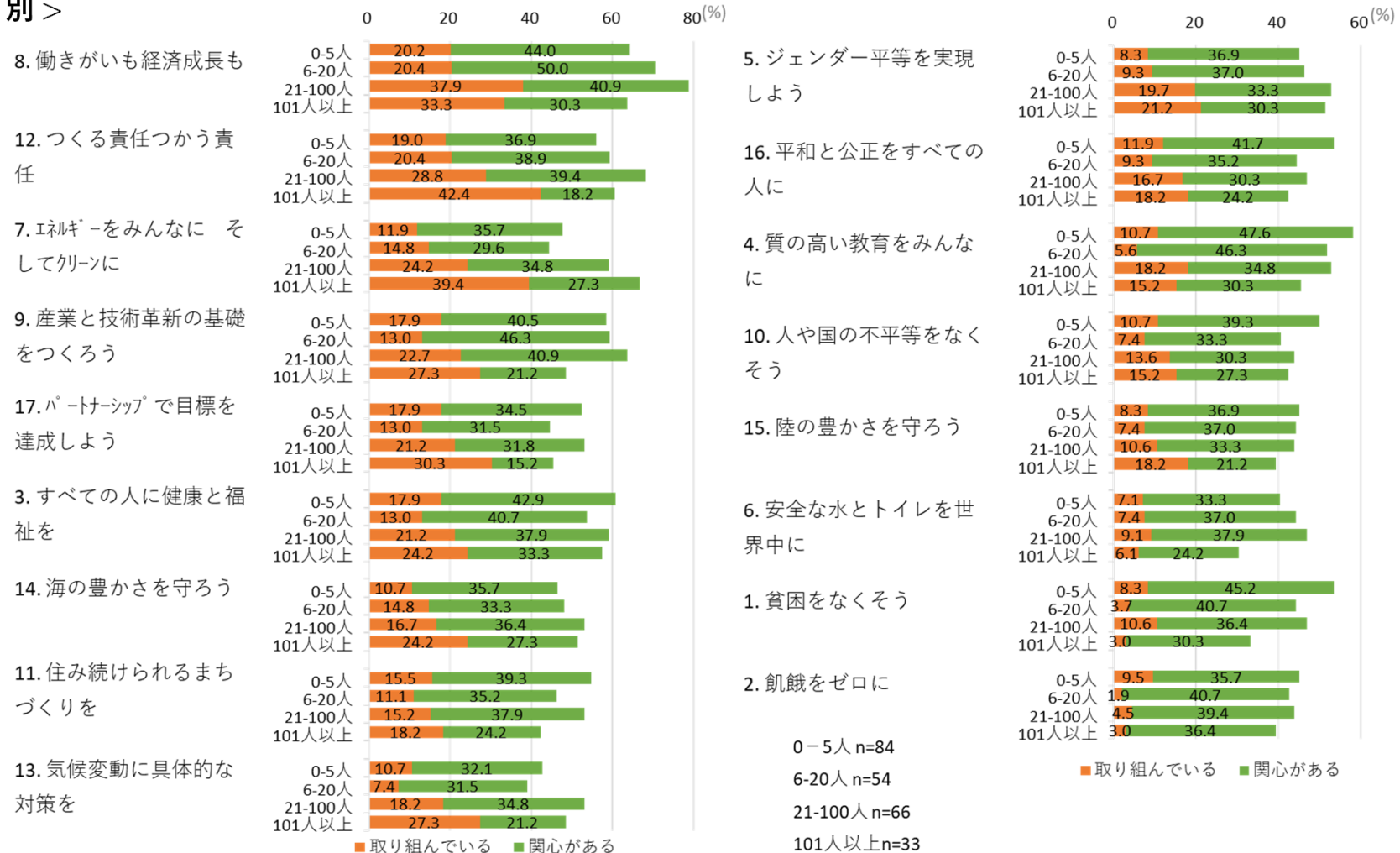
- “取り組んでいる”目標をみると、規模にかかわらず「8. 働きがいも経済成長も」、「12. つくる責任つかう責任」、「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の3つが上位となった。
- 0-5人および6-20人では取組みは低調で、最も割合が高くなった「8. 働きがいも経済成長も」および「12. つく

る責任つかう責任」でも約2割にとどまった。

- 21-100人では「8. 働きがいも経済成長も」が37.9%と最も高く、101人以上では「12. つくる責任つかう責任」が42.4%と最も高くなった。
- 「12. つくる責任つかう責任」、「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「14. 海の豊かさを守ろう」は規模が大きいほど取り組む割合が高くなった。

図E SDGsへの取組み、関心（続き）

< 規模別 >



《SDGsに取り組むことによる効果》図F

< 全体 >

- SDGsに取り組むことによる効果について尋ねたところ、“効果があった”では、「経営方針の明確化」が最も高く、15.1%となった。
- “今後の効果を期待している”では、「取引先、顧客への企業イメージの向上」が53.4%、「人材の採用・確保のためのイメージの向上」が48.7%と5割前後と高くなった。また、そのほかの効果についても、回答者の約3割

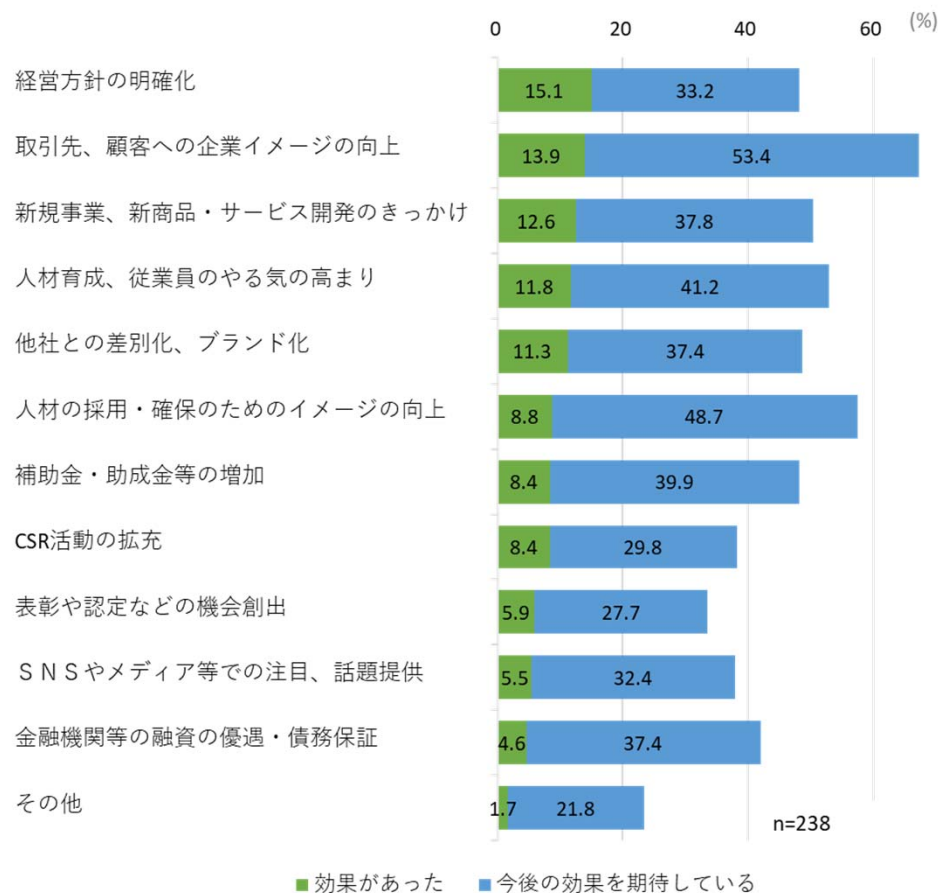
以上が期待しているという結果となった。

< 業種別 >

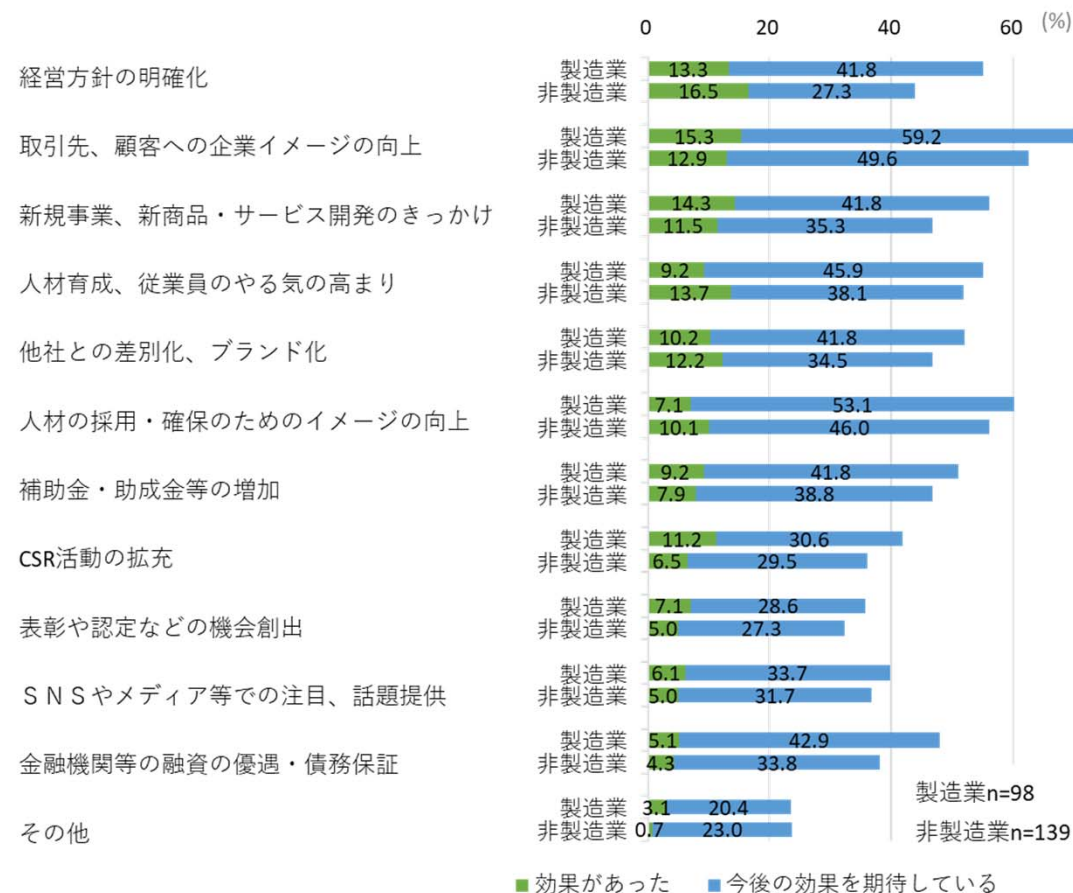
- 製造業では、“効果があった”、“今後の効果を期待している”とも「取引先、顧客への企業イメージの向上」が最も高く、それぞれ15.3%、59.2%となった。
- 非製造業では、“効果があった”では「経営方針の明確化」が16.5%と最も高く、“今後の効果を期待している”では、「取引先、顧客への企業イメージの向上」が49.6%と最も高くなった。

図F SDGsに取り組むことによる効果

< 全体 >



< 業種別 >



《SDGsに取り組むことによる効果》図F（続き）

< 規模別 >

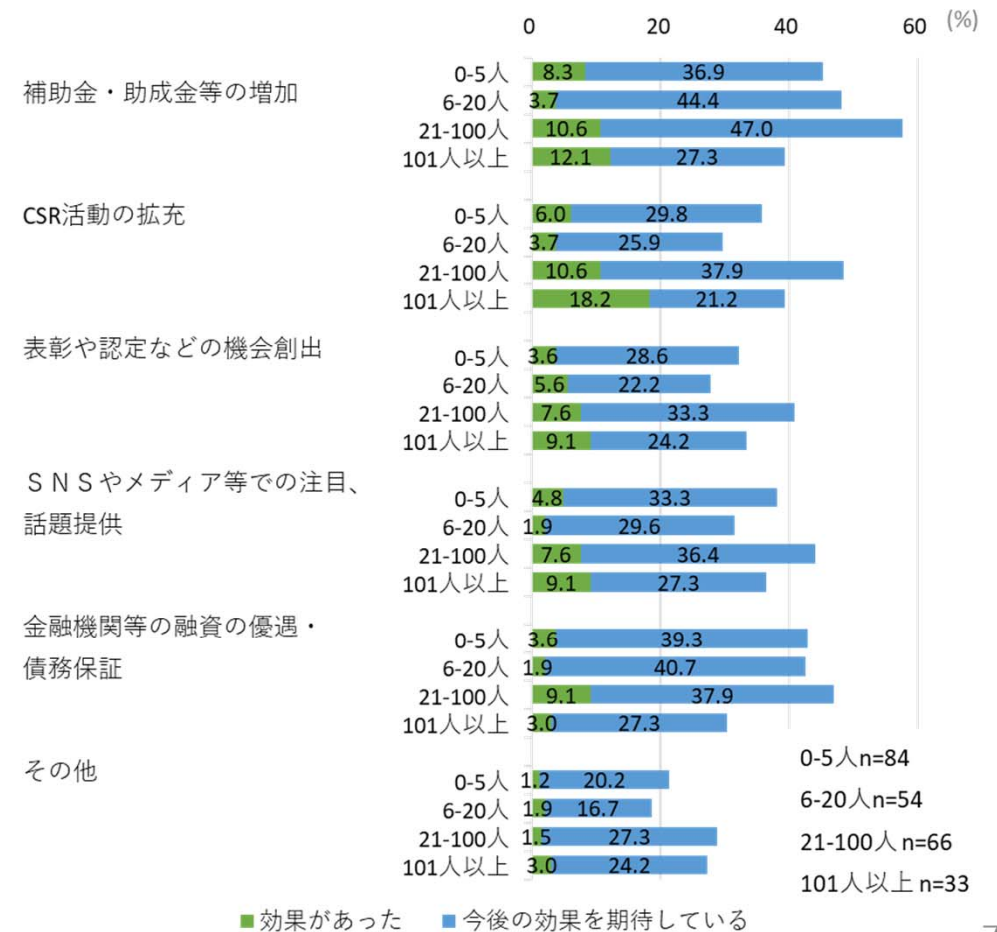
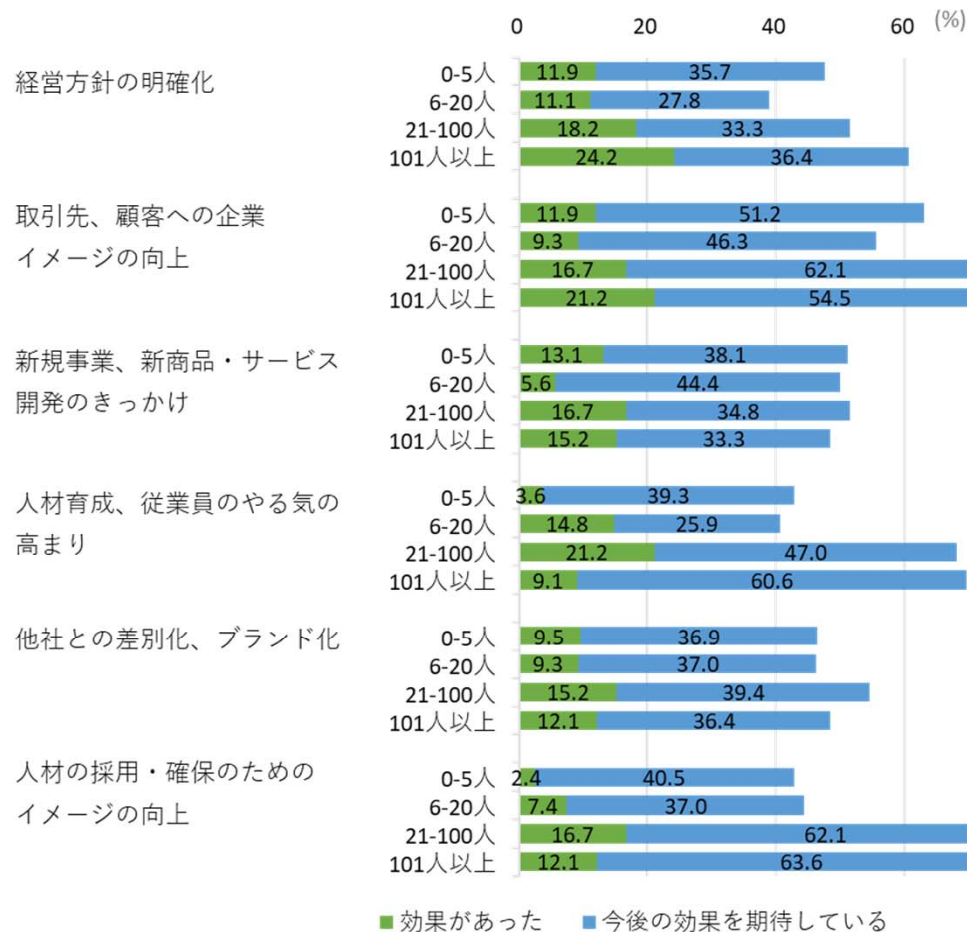
- SDGsに取り組むことによる効果について、規模別にみると、0-5人では「新規事業、新商品・サービス開発のきっかけ」が13.1%、6-20人および21-100人では「人材育成、従業員のやる気の高まり」がそれぞれ14.8%、21.2%、101人以上では「経営方針の明確化」が24.2%と、最も高くなった。
- 選択肢に上げた効果の多くで、規模が大きい程、“効果

があった”とする割合が高い傾向がみられた。

- “今後の効果を期待している”では、0-5人および6-20人では「取引先、顧客への企業イメージの向上」がそれぞれ51.2%、46.3%と最も高くなった。21-100人では「取引先、顧客への企業イメージの向上」および「人材の採用・確保のためのイメージの向上」が62.1%と最も高くなり、101人以上では「人材の採用・確保のためのイメージの向上」が63.6%と最も高くなった。

図F SDGsに取り組むことによる効果（続き）

< 規模別 >



《SDGsに取り組む上での課題》図G

< 全体 >

- SDGsに取り組む上での課題についてみると、「SDGsを担当できる人材がいらない」が39.7%と最も高く、「SDGsに関するノウハウ等の情報が不足」が36.2%、「資金に余裕がない」が29.3%と続いた。

< 業種別 >

- 製造業では、「SDGsに関するノウハウ等の情報が不足」が42.7%と最も高く、非製造業では、「SDGsを担

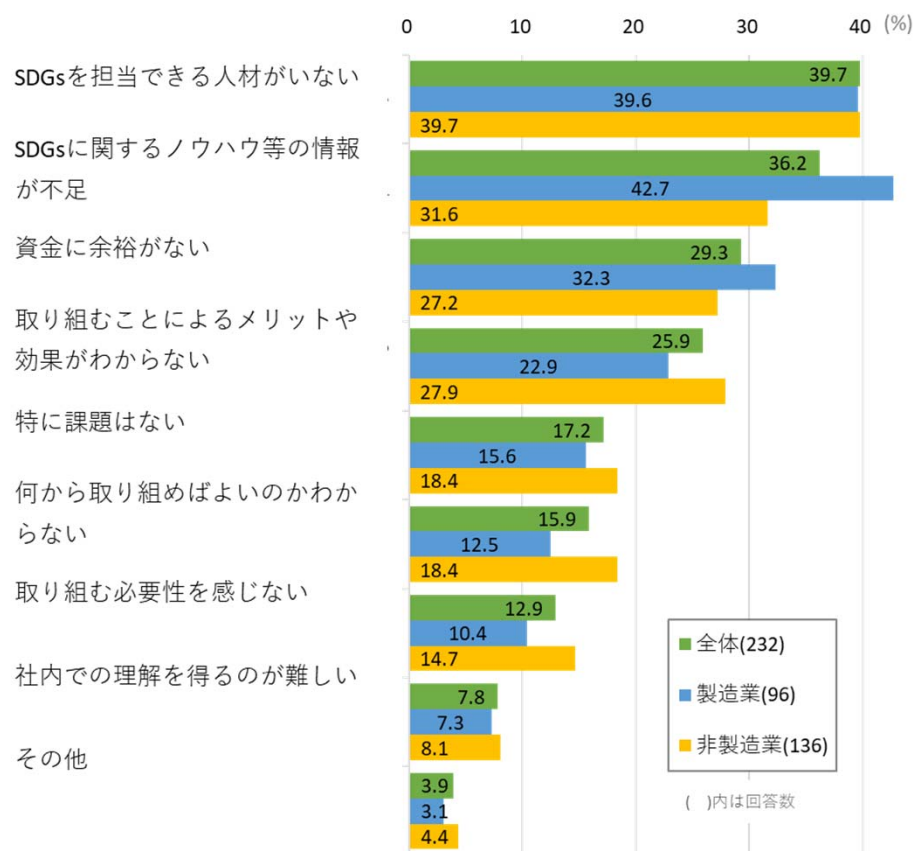
当できる人材がいらない」が39.7%と最も高くなった。

< 規模別 >

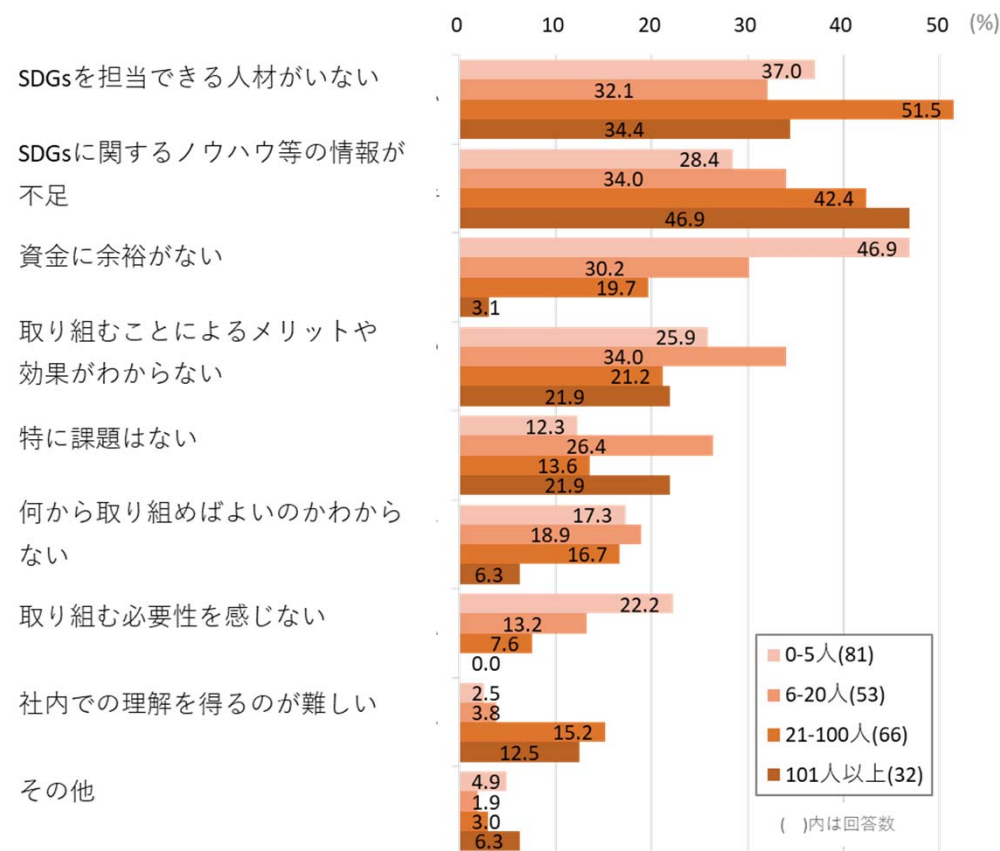
- 0-5人では「資金に余裕がない」が46.9%、6-20人では「SDGsに関するノウハウ等の情報が不足」および「取り組むことによるメリットや効果がわからない」がともに34.0%、21-100人では「SDGsを担当できる人材がいらない」が51.5%、101人以上では「SDGsに関するノウハウ等の情報が不足」が46.9%と最も高くなった。

図 G SDGsに取り組む上での課題

< 全体・業種別 >



< 規模別 >



《SDGsに取り組む上での課題》図G（続き）

< 取組みの状況別 >

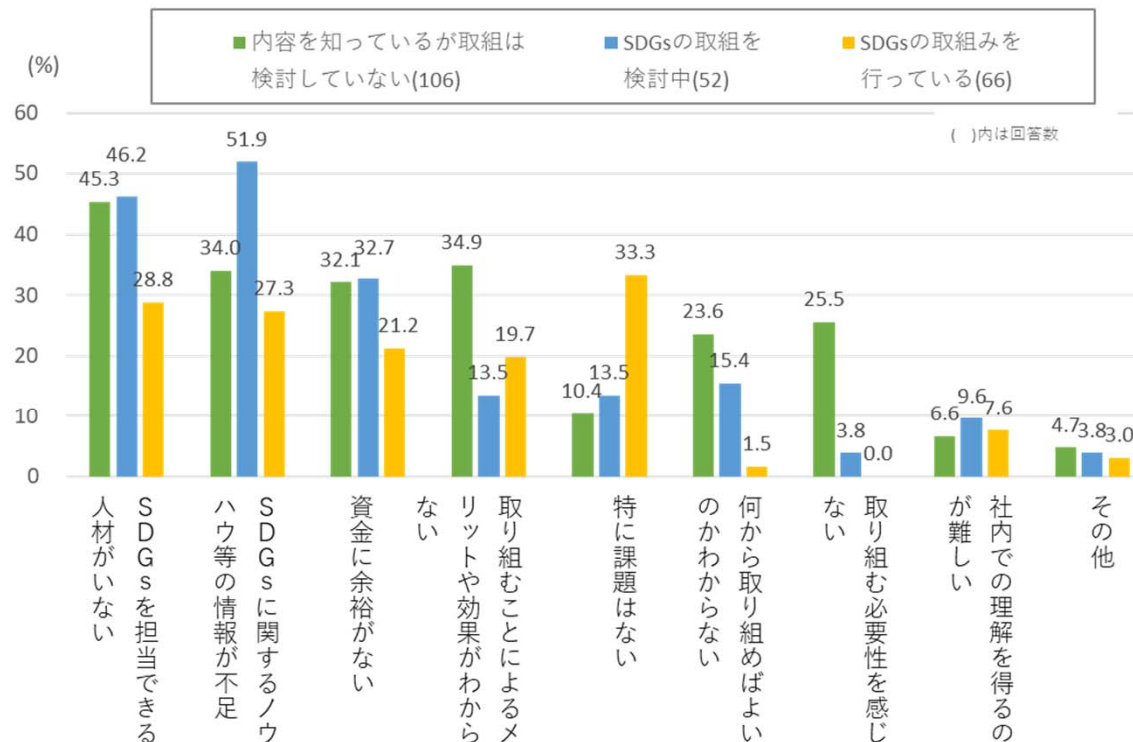
- SDGsに取り組む上での課題について、SDGsへの取組み状況別にみると、“内容を知っているが取組は検討していない”というグループでは、「SDGsを担当できる人材がない」が45.3%と最も高くなった。また、「取り組むことによるメリットや効果がわからない」が34.9%、「取り組む必要性を感じない」が25.5%となり、“SDGsの取組を検討中”や“SDGsの取組を行っている”グループよりも突出して高くなった。

- “SDGsの取組を検討中”のグループでは、「SDGsに関するノウハウ等の情報が不足」が51.9%と5割を上回り、次いで「SDGsを担当できる人材がない」が46.2%と続いた。
- “SDGsの取組を行っている”グループでは、「特に課題はない」が33.3%と最も高く、次いで「SDGsを担当できる人材がない」が28.8%と続いた。

図 G SDGsに取り組む上での課題（続き）

< 取組みの状況別 >

※3ページの「SDGsの認知度と取組み状況」の選択肢のうち、“内容を知っているが取組は検討していない”、“SDGsの取組を検討中”、“SDGsの取組を行っている”と回答した人とのクロス集計



《資金繰りDIの推移》 図H

<全体>

- 資金繰りについて、「順調（良い）」の割合から「逼迫（悪い）」の割合を差し引いた資金繰りDIは、2.4ポイント上昇の20.6となり、3期ぶりの上昇となった。

<業種別>

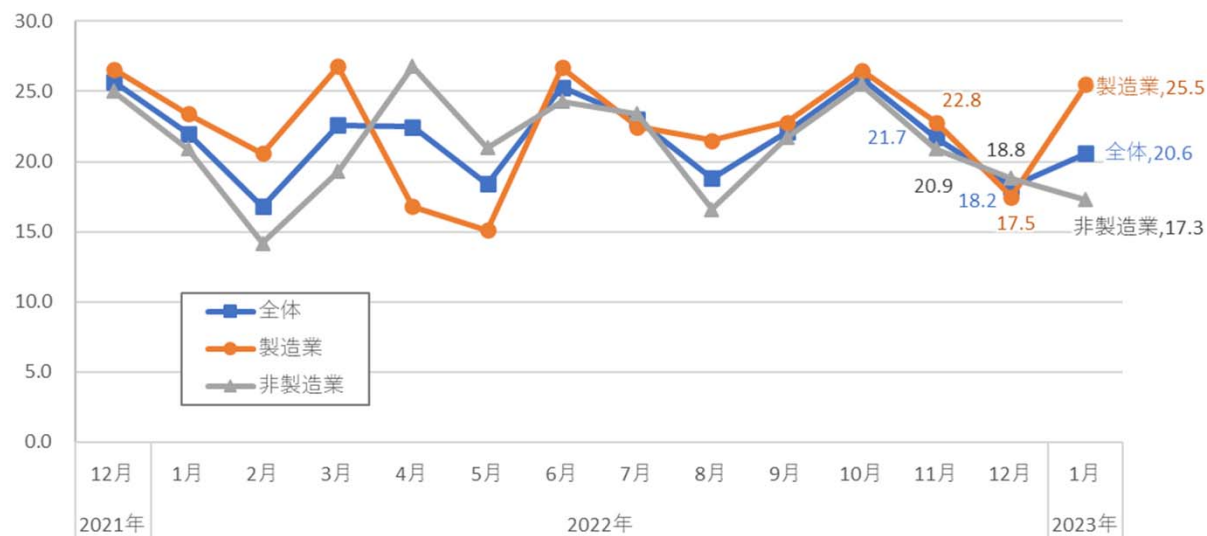
- 製造業では、DIは、8.0ポイント上昇して25.5となった。
- 非製造業では、DIは、1.5ポイント下降して、17.3となった。

<規模別>

- 0-5人では、DIは、3.5ポイント上昇して-13.1となった。
- 6-20人では、DIは、6.0ポイント上昇して18.5となった。
- 21-100人では、DIは、9.7ポイント下降して50.0となった。
- 101人以上では、DIは、13.2ポイント上昇して51.5となった。

図H 資金繰りDIの推移

<全体・業種別>



<規模別>

